農業ガイド968号　2014年７月26日
「ゆめちから」作付け２割減　15～16年産の契約目標数量

道農協畑作青果対策本部は、パン・中華麺用の強力系小麦の急激な生産増に需要が追いついていないことから、2015～16年産は強力系３品種に14年の作付面積を上限とする「契約目標数量」を設定した。十勝では15年産の強力系新品種「ゆめちから」は２割減少する見込み。作付けを抑えながら、ＪＡ系統全体で強力系小麦の需要開拓を図り、需給を安定させたい考え。

2015年産 強力系3品種の契約目標面積

単位 ha	ゆめちから		春よ恋		はるきらり	
	14年産	15年産	14年産	15年産	14年産	15年産
十勝	3,576	**2,746**	33	**102**	145	**115**
道南	48	**55**	242	**253**	9	**0**
後志	6	**6**	318	**343**	0	**0**
日胆	138	**204**	159	**170**	30	**13**
石狩	2,731	**2,870**	1,367	**1,395**	10	**4**
空知	2,626	**2,725**	499	**1,115**	1,517	**1,113**
留萌	110	**197**	567	**670**	0	**0**
上川	725	**774**	2,495	**2,666**	64	**32**
オホーツク	988	**856**	4,904	**4,901**	17	**0**
根室	0	**0**	0	**0**	0	**0**
全道	10,948	**10,433**	10,585	**11,615**	1,792	**1,277**

14年産は売渡委託面積、15年産は契約目標面積

国の経営所得安定対策では、国策として自給率３％しかない国産パン用小麦の生産拡大に向け、パン・中華麺用小麦には60㌔当たり2550円が加算され、ここ数年、生産が増加傾向にあった。ただ、13年産までは強力系小麦が高価格で取引されたことや、実需側の国産小麦を使うノウハウが十分でないことなどから、需要が思うように伸びていなかった。

小麦は13年産から前年秋の作付け前の６月に作付指標面積を示していたが、14年産は需給状況が不透明なことからパン・中華麺用は指標数値を示さなかった。今年は新たに目標数値を設定して、作付けを抑えることにした。

同本部が設定した十勝の強力系３品種の目標数量では14年産実績（ＪＡとホクレン間の売渡委託面積）比の21･1％減となる2963㌧。品種別にみると９ＪＡで作付け予定の「ゆめちから」が同23･2％減の2746㌧。「春よ恋」が３倍増の102㌧、「はるきらり」が同20･7％減の115㌧となった。

ゆめちからが減少した背景には、入札で価格が下落傾向となったことや、主力の中力系「きたほなみ」に比べて穂発芽しやすく、昨年の収穫期の長雨で被害が多発したことで作付けを避ける農家が増えたとみられる。ただ、各ＪＡは今後もパン用小麦の自給率拡大に向け実需者、消費者への普及を行う。また、強力系小麦は商社系での作付けも多く、今後、ゆめちからの生産が急激な減少を続ける可能性は低そうだ。

全道でみると、３品種の目標数値は前年実績とほぼ同じ２万3325㌧。ゆめちからが同4･7％減の１万433㌧、春よ恋が同9･7％増の１万1615㌧、はるきらりが同28･7％減の1277㌧。ゆめちからは石狩や空知で多い「縞（しま）萎縮病」への耐性に優れることから両管内では増えた。

農業ガイド975号　2014年９月13日
きたほなみ好発進の全量落札　ゆめちからは３割
15年産小麦入札

全国米麦改良協会（東京）は、2015年産小麦の第１回入札結果を公表した。上場量全体の６割を占め、十勝でも主力の日本麺（うどん）用「きたほなみ」は上場量全てが落札される好調な結果となった。一方、強力系小麦はパン・中華麺用の新品種「ゆめちから」が３割の落札にとどまるなど、生産と需要者間の「需給ギャップ」解消に課題を残した。

入札は９日に行われ、北海道からは小麦５銘柄・約８万8080㌧が上場された。全国ではこれを含めて15道県・26銘柄11万7100㌧が上場され、約４分の３が北海道産。十勝は道内の小麦生産の約４割を占める。

きたほなみは前年比5･5％減の７万1180㌧が上場され、入札申し込みは倍率1･7倍の12万1020㌧と人気だった。昨年の第１回の入札では63％しか落札されなかったことから、需要が改善した。